

事務事業名	新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康推進課 ワクチン接種対策室		
総合計画体系	政策名	〈Ⅲ〉支えあい健やかに暮らせるまち〈保健・医療・福祉〉	所属G	ワクチン接種対策G	課長名	村松 優	
	施策名	〈20〉健康づくりの推進	担当者名	宇田川 泰行	電話番号	0854-40-1043 (内線) 2174	
	目的対象	市民 意図 心身ともに健康で暮らす。	予算科目	会計	款	大事業名	保健予防事業
	基本事業	〈058〉病気の早期発見と重症化予防・感染症の予防 目的対象 市民 意図 病気を早期に発見し、重症化を予防する。感染症を予防する。		0:1	2:0	0:2	大事業名
			0:5	2:0	0:7	中事業名	

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市民	新型コロナウイルスワクチン接種ができるよう市で体制を構築することで、接種を希望する対象者が接種を受けることができる。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R2 年度～ R5 年度)	予防接種法に基づく国の新型コロナウイルスワクチン接種事業を支弁事業として、厚生労働大臣の指示の下、都道府県の協力により市が実施するにあたり、主導的役割を果たす国、実施主体としての市、広域的な視点で市町村を支援する県といった役割分担を基本として市の接種体制やワクチンの流通体制を速やかに整備するための事業。費用については国が負担する。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R4年度実績(R4年度に行った主な活動) 計画策定、予算管理、広報、特設会場設置、コールセンター設置、小分けワクチン配送、接種券印刷・発送、ワクチン接種便(送迎)、接種の実施(医療従事者、高齢者施設入所者、集団接種、個別接種、初回接種(フォローアップ)、小児接種(5～11歳))	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) R3: 集団接種を主体としてアスバル駐車場に設けた特設会場と各町の交流センター、雲南市立病院ロビーを使うなどして接種を実施。市医師会の協力を得ながら進めた。 R4: R3中途から医師会医師の集団接種への応援から自院での個別接種をお願いし、接種者の利便の向上と接種能力の拡大を図った。被災したアスバル特設会場を廃止し、医療スタッフの確保しやすい雲南市立病院第3駐車場に特設会場を建設し、さらなる効率化を図った。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 乳幼児(初回①②)③除く	%	-	-	4.5	5.0
イ 小児(初回①②)	%	-	0.0	28.3	35.0
ウ 全体(初回①②)	%	-	86.0	84.4	84.0
エ 2価ワクチン接種	%	-	0.0	54.8	65.0

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)	② コストの推移	単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
報酬 3,306千円 職員手当等 3,163千円 報償費 163千円 旅費 55千円 需用費 1,666千円 役務費 2,783千円 委託料 31,149千円 使用料及び賃借料 1,104千円 【財源】新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金	財源内訳	千円	5,626	128,278	70,730	119,206
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円			2	
	事業費計	千円	5,626	128,278	70,732	119,206

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	初回接種: 事業の遅延なく開始した。計画上の目標としていた集団免疫の獲得できる接種率70%を大きく超える87%を達成した。 追加接種: 事業の遅延なく開始した。初回接種を下回る予想をしていたが、概ね同水準の接種率を達成した。 小児接種: 事業の遅延なく開始した。新型コロナウイルス感染症が子供では重篤な症状をあまり示さないということもあり、接種目標に対して低い接種率となった。
② 事業実施するうえでの課題	国からの安定したワクチン供給が受けられず、接種を一時見合わせたこともあったほか、供給されるワクチンの種類が偏ったり、期限が半年程度の残り少ないものが供給されたりするために、長期安定した接種計画が立てにくい。唐突な接種対象の拡大や追加接種の決定による計画の大幅な変更や体制の見直しが度々あり、計画推進に大きく影響した。 個別接種による接種体制が不足しており、集団接種による接種能力の確保が必要不可欠となっている。長期的には個別接種だけで接種ができるような体制づくりが必要である。
③ 課題解決に向けた改革改善等	国の長期的な接種計画に基づく実施とワクチンの安定供給が求められる。 個別接種による接種体制の構築については、今後の大きな課題として取り組みが必要である。